

夕刊日六十月五

常磐每日新聞

定価一紙一円、一月五元、三月十五元、半年三十元、一年六十元、郵費別
 廣告料五割、十二割、二十割、三十割、五十割、六十割、七十割、八十割、九十割、別
 日曜、祭日の翌日休刊
 発行所 常磐毎日新聞社 印刷所 常磐毎日新聞印刷株式会社
 電話 六三〇
 社址 常磐毎日新聞社

李官堡の激戦と

大越中佐の戦死に就て (二)

岡本少将閣下御前講演

茲に多年來の御厚誼を謝し衷情を述ぶること右の如し

三、身体疲勞し筆を執るに困難なり仍て概況を述べ中佐が自ら進んで萬死を期し此重任に當り重傷を負ふに當り述懐悲壯の決心に及ぶ其操心の高潔其動作の沈毅古武士の面目躍如壯烈悲慘此戦役中多く見ざる所であります。

嗚呼悲哉……嗟乎……壯哉……

而して中佐武勳赫々たる平素行跡の崇高なる實に軍人の模範典型と申すべきであります。中佐は既に日清戦役偉功を奏して金鷄勳章を受けられて又明治三十七年三月動員令あるや第二軍管理部副官となりて従軍し時の管理部長は實に軍神稱中佐でありました、同年九月進級の上我歩兵第六聯隊第二大隊長とし着任せられ彼の沙河會戦に於ては卒先陣頭に立ち大隊を指揮し沙河堡南方敵砲兵陣地に突撃して我大隊は其砲十六門を鹵獲して第二軍司令官より感状を授與せられ赫々たる武勳を建て沙河對陣黒溝臺

の戦闘等に於て常に第一線に立ち或は下士哨の位置に佇み或は砲彈を収集し信管を捨得して彈種を究め距離を測り終日展望臺上にあつて敵情を視察し敵守備兵の交代第一線の情態變化等審かに之を上司に報告し堅忍持久克苦精勵只々感嘆の外はありませぬ、其他第二線となり閑靜の夜暇を得る毎に携ふる處の書を繕き謠曲を催され常に好んで「鉾の木」を愛吟せられ、謠終つて其精神のある處武備忘る可からざるを諭さる。傳令從卒を爐邊に集め卑近の實例を擧げて道話を試み忠孝節義を誦へられ一同坐を進め肩けて聞き入る有様今眼に見るが如くであります。

常任座臥教育に念とせられざる事なきが如く、閑時あれば筆を執て家庭に訓へ舊知後進に示さる。橋中佐の遼陽に戦死し軍神と仰かるゝや中佐一日書を仙臺出身陸軍中央幼年學校生徒に寄せて曰く(嘗て仙臺地方幼年學校生徒監に勤務せられたることあり)橋中佐の最期固より壯烈なる然れども其軍神として世に

文藝募集

子をして軍神たらしむる所以なり」と以て中佐が平素人を誨ふる事如斯自ら持すること亦斯の如くであります。爾來我等は實に中佐の心を以て心とし常に反省修養に努力して居るものであります。中佐が明治三十九年九月我歩兵第六聯隊長として赴任せらるゝや既に期する處あり。乃ち遺言として左の如き述懐を認めて家郷に致し論して曰く「子が戦死の報に接せば乃ち之れを聞け」と。拜誦して何人か其用意と其心事に泣かざるものがありませうか。遺言は令聞、父上、愛兒に宛てられたる各別のもであります。中佐平素心事の一端を窺ひ得るものとして茲に附録しました。

門 專

産婦人科
花柳病科

◎入院應需

井坂醫院
平町田町 電話五五九番

御料理 一の井
電一六七

開店 今十六日より
何卒御引立願上ます
平町南町元大和家を改築

ランチルーム 一の井
電一六七

初夏来る

緑の丘！
静かな水郷を尋ねる……
初夏のピクニックに
一層愉快なMSカメラ
素的に良く寫るので
大評判……

MSカメラ相談部新設

今回皆様の御便宜を計りMSカメラの相談部を新設致しました、今迄御撮りになつた寫真をよく出来なかつた方又はこれから御初めになる方で御解りにならぬ方はどんな事でも御遠慮なく御相談下さい、皆様の良く御解りになる迄演説して御教へ致します。

- 小型判カメラ 附屬品附 金五十錢より各種
- ベスト判カメラ 同 金貳圓より各種
- 名刺判カメラ 同 金四圓より各種
- MSカメラ特約店

いづみや玩具店
カメラ部
平 驛 前

産名城磐

らか鹽と節鯉



店理代平命生本日大最優最
榮 盛 賀 志
番一二三電 目丁四平

受賞御挨拶

今回當地主催昭和産業博覽會開館中小生特許第八九九二二號手袋機械實演に際して本縣視察員始め各地市町村勸業課員及産業組合消費組合等の公共團體代表者各位其他一般觀衆の絶大なる賞讃を博し更に審査會に於て名譽大賞牌を賜はりました事は從來皆々様の御同情御後援の賜と深く感謝する次第で御座います。今後は當地は固より本縣延いては日本全土に向つて本機械及製品を普及し當地産業開發の爲め益々奮闘努力する覚悟であります。何卒微力なる吾々に尚一層の御後援賜はらん事を紙上より切に御願する次第で御座います。

平町 坂本メリヤス工場

坂本兼治郎

傘日とルソラパ

美影點の傘日とルソラパ・頭街の日麗

〇四一電 ヤルツ 四平

平小唄

仙臺放送局にては目下平町幾多の人士に口ずさまれつゝある「平小唄」を放送せんが爲め平藝妓屋組合に入選の委囑あり同組合にては藝妓間からツブ選りの唄ひ手を物色中で唄及び三絃太鼓等一行六七名になるであらうと

HKから放送

バラック氏は入山の坑夫が

特徴が一致し

平署俄に活動

東京府下寺島のバラック事件が迷宮にある折柄昨日本署では伊藤署長が極秘裡に刑事や巡査を指揮し

何事か密議を凝し慌しい中にも緊張を見せて居たが探聞するに同八ツ斬り事件推定被疑者に關し確證を握つたものゝ如くであるこの推定被疑者と見られるのは石城郡湯本町入山炭坑坑夫東白河郡笹原村生れ樋口清春(三〇)で同人の妻さわか昭和五年二月夫の入坑

今度は合併案の条件を持ち寄る

昨日は纏らずに

一先づもの別れ

平町近郊神谷村鎌田外四ヶ村四字合併委員会は十五日午前十時から平町會議室において關係町村長の外平町から伏見町長外吏員十餘名出席第一回協議をなしたが内郷村字新町、神谷村字鎌田の如きは平町の市街地と軒並みにあ

平各チーム

昨日の試合

昨日警中グラウンドに於いて催された平町各チームの野球試合は左の如き結果を示した

五丁目51—3 鎌田
平俱樂部7—0 片倉製糸
友9—7 平俱樂部

町會開く

来る廿二日に

平町では来る廿日午後一時より町會を開會、寄附金採納、土木委員の改任、豫算の更正、町有土地の拂下げ等の議案を付議する筈

學年主任會議

平第二小學校にては本日午前十一時より各學年主任會を催した

平町の

大掃除

廿二日に

既報去月下旬執行の筈であつた平町の春期衛生掃除は産業博覽會開催中の事として延期を續けて居たが来る廿二日第四日曜を期して全町一齊に行ふ事と決定された

一家四名の者が

食ふや食はずに

悲觀の餘り縊死

石城郡好間村大字北好間字山崎地内山林を昨十五日午前六時頃通行せる同字の吉田福治(五八)は松の木に帯を下げて縊死せる労働者風の男を發見其筋に届出たので平署員が検死せるに同村字山崎七五居住日雇業戸政之丞(三三)と判明したが原因は最近仕事にあり付けず一家四名の者が糊口に窮し前途を悲觀した餘り自殺せるものと判明した

失業者の救済に

ブラヂル行獎勵

磐炭が村當局と協力して

石城郡内郷村では目下炭礦方面の失業者が多數就職に悩まされて居るので海外移住による對策を研究し既に滿洲への移住が良成績を擧げて居るので今度は南米ブラヂル國の移民を炭礦並に村當局が協力し獎勵すべく

明日のラジオ

十七日

報豫氣天

今晚は北風の晴れた曇つたり明日は雨模様の見込み

今晩の部

後六、〇〇 子供の時間
童話劇「野遊の虹の會」
後八、〇〇 新講談「青春時代」園城寺義應
後八、四〇「朝鮮の民謡」李文姬嬢外
後九、〇〇 常磐津「花舞臺霞の猿曳」常磐津若太夫
後九、三一 奉天より

明日の部

後九、四〇 全國ニュース
氣象通報 番組豫告
前九、一〇 料理献立「アツプルフリタース」朝倉長吉
前一〇、三〇 家庭講座「家庭に於ける子女の教育」(一)高島平三郎
後〇、〇五 映畫物語「私の殺した男」石川東隆

大浦共同販米

既報四倉驛前大浦農業倉庫の共同販賣は昨十五日午前十時より同倉庫に行はれ四等七十五俵、五等二百六十八俵、等外十三俵、合計三百五十六俵を入札せる結果四等建値八圓二十六錢の同値を以て平町青木要次郎、石井重太郎の兩氏に落札されたが前回入札より十五錢安である

平職業紹介所報告

回求人部
△農夫 四十以上 年百圓 (夏井村某)
△女中 三十迄 尋卒 給料面談(平町某)
△工見習 十六迄 高卒 仕着小使(平町某)
回求職部
△自動車運轉手 三十二才 高卒 給料面談(新潟縣某)
△コック 三十一才 高二修 給料面談(茨城縣某)
△女中 二十一才 尋四修 給料面談(茨城縣某)
△新聞配達 十七才 高卒 給料面談(赤井村某)

飛込自殺

トンネル内に

眞ツ二つ屍体

石城郡川前村川前驛線路工手大内今朝藏、石井貞影の兩名が十四日午前九時頃小川村字上小川地内磐越東線

幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第五十一席 眞庭念流達人櫻井五助

身體がふるへて
七郎次は六藏の歸らうと
するを止めて

七「まあ待つてくれ、おか
めは縛られてどうした」

六「旦那が竹刀を持つて來
てさア、七郎次を何處へ逃
したかそれを云へとビシヤ

ビシヤ打つた、痛いと思
て身体がブルブル動いて唇
から血が出たぜ、俺はびつ

くりした」

七「可哀想に殺されたか」

六「イヤ殺さないよ、何程
責めても云はねえから土藏

の中へ押籠めてしまつた、
然しあの儘では死ぬだらう

食物は俺が運んでゐるから
今日までは生きてゐるが氣

の毒な事だ、早く明けて遣
つてくれ」

七「イヤお前に會つた爲に
おかめの事がすつかり判つ

た時、に六藏俺と一緒に櫻
井様の許へ行つてくれ」

六「なんだッて櫻井様の許
へ行くんぞだ」

七「おかめを助け出す事に
就いて櫻井様の力を借りな

ければならない、又お話し
す事もある、お前とおかめ

とは朋輩、その朋輩の苦し
んでゐるを見てはゐられな

い」

六「さうだナ助けける事が出
來るならば櫻井様の許へ一
緒に行かう」

七「さうか、では是から直
にお訪ね申す事にしよう」

と此勘定を支拂ひ、六藏
を伴れて七郎次は溜屋を出

て

七「夜中上がりまして誠に
不躰とは存じますが申上げ

たい事がございまして」

五「オさうか、夫はどんな
事か」

七「昨年森川甚平様の爲に

目にかゝりたいと申して參
じましたがお會になります

か」

言はれて五助は考へてゐ
たが

五「村上の若黨が僕を伴れ
て來たと、まあ會うてやる

此處へ案内いたせ」

畏りましたと取次は出て
行く間もなく其處へ來たは

七郎次に六藏

七「おイヤ、七郎次さんこ
んな事で俺を伴れて來た、

かおかめさんの話をしねえ
な」

七「まづ黙つてゐる物には
順序がある、後に云ふべき
事を前に云つては事情が判

らなくなる」

六「そんなものかナ、早く
話して俺を歸してくれ遅く

なると旦那に叱られるよ」

七「まあ待つて、借櫻井様
貴下も遠藤様が森川様の爲

めに殺されたを御不審と思
召すでございませうが、あ

の日は私に主人の供をいたし
まして森川様のお住居に參

りました、遠藤様は御家來
も伴れず一人でお出になり

恰度日の暮れ少し前でした
其の日は朝から曇つて居り

まして陰氣な日でございま
したよ、私は中の口に待つ

て居りますと鑼音が聞え、
エイヤツと云ふ氣合が奥か

ら響いて來ました、何が始
まつたかとそつと上つて見

ますと森川様は殺されて居
ります、イヤ私はびつくり

いたしました、ところが主
人の村上主殿が今度は遠藤

様を斬りました、突如の事

進め

五「伯父はお前も知る通り
温順な性質とて森川に怨み



い、又殿様の仰せによつて
村上主殿と打揃つて森川方
に參り彼を成敗いたすは主
命とて據ない其節甚平の爲
に伯父が一刀の下に斃れた
は合点のゆかぬ事だ」

梅毒 淋病 皮膚病 婦人病 腸胃病

林病 十二指 腸虫病

門專 院醫科 村松

七〇一話電 町南平

科人婦・科外

院醫坂井

町田町平

番九五五話電

で遠藤様は油断をしてお在
になりましたから受けるも
引くも出來ません、忽ちそ
れへ斬り付された、其の
時の私の驚いた事身体が慄
へて足もすくみ立つことが
出來ません、這つて中の口
まで來ましたがどうして主
人が遠藤様を殺したかどう
も喧嘩をした様子もないが
それとも主人は氣が違つた
かと思ひましたが、それか
と玄關へ來まして心を落着
け主人の歸るを待つて居り
ますと應て其處へ出て參り
まして、遠藤様は氣の毒な
事をした森川甚平の爲に斬
られたと慥う申します」

兩殿下御買上の

御料 鹽 豚

田町 三二二三屋

電話三二三番

揚物其他凡ゆる食用に
滋養豊富な……

鳥の油を!!!

おすゝめ致します

四合瓶詰 一本 〇、三〇

鈴木鳥肉店

平町播磨小路(電話六五四番)

吉田眼科病院

平紺屋町、電話六八番

耳鼻咽喉科専門

増田醫院

平南町 (電話四八二番)

江戸前料理 會堂

御家庭……御膳二人以上

松 一人前 一圓五品附

竹 同 一圓廿錢同

梅 同 一圓五十錢同

ゼヒ一度御試食下さい

仕出し 錦水

電四五四番